

議 事 録

- 1 会議の名称 平成27年度第1回水戸市都市交通戦略会議利用促進部会
- 2 開催日時 平成27年9月30日(水) 午後2時45分から午後4時15分まで
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎前プレハブ会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 茨城大学工学部都市システム工学科 熊澤 貴之
(名簿順) 東日本旅客鉄道(株)水戸支社総務部企画室 小野 孝司(代理)
鹿島臨海鉄道(株) 檜山 直樹(代理)
茨城交通(株) 火口内 宏一(代理)
関東鉄道(株) 本多 佳夫
関東グリーンバス(株) 長谷川 貞仁
ジェイアールバス関東(株)水戸支店 佐藤 亮
(一社)茨城県ハイヤー・タクシー協会 鬼澤 秀通
水戸市住みよいまちづくり推進協議会 大関 茂
公募市民 米倉 彩乃
公募市民 根本 貴彬
公募市民 野原 香里
国土交通省関東運輸局茨城運輸支局 飯塚 正芳
水戸市市長公室 沼田 誠(代理)
水戸商工会議所 三上 靖彦

※代理出席4名, 欠席2名
 - (2) 委託事業者 【一般財団法人計量計画研究所】
主任研究員 秋元 伸裕, 研究員 高砂子 浩司,
研究員 稲原 宏, 研究員 蛭子 哲
 - (3) 事務局 【水戸市市長公室交通政策課】
課長 須藤 文彦, 課長補佐兼係長 大嶋 実,
主幹 村石 俊弘, 主幹 小林 健典
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 議 題
 - ア 現状分析と課題の整理について
 - イ 施策体系及び重点施策の事業概要について
 - ウ 意見交換
 - (3) その他

- ア 「水戸駅～大工町」 共通回数券活用 100 円バス事業について
 (4) 閉 会

6 配布資料

- (1) 平成27年度第 1 回水戸市都市交通戦略会議利用促進部会資料
 (2) 現状分析と課題の整理について

7 内 容

	<p>※水戸市都市交通戦略会議規約第 9 条第 4 項に基づき，部会長が進行を務めた。</p>
部会長	<p>1 開 会</p> <p>【部会長あいさつ】 本年度は公共交通基本計画を策定することとなっており，この場では主に利用促進に係る施策について検討を進めてまいります。交通体系部会からご出席いただいている委員の皆様はお疲れだと思いますが，忌憚のないご意見をいただいてまいりたいと考えておりますので，よろしくお祈いします。 まず，本日の出席者数について事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>本日は，定数17名中15名の出席または代理出席をいただいております。委員の過半数の出席をいただいております。</p>
部会長	<p>事務局からの報告のとおり，過半数の出席であるため，水戸市都市交通戦略会議規約第 7 条第 2 項の規定を準用し，本会議は成立していることをご報告します。 また，本日の会議の議事録につきましては，水戸市ホームページ上で公開する前に各委員宛て送付のうえご確認いただきたいと考えておりますので，よろしくお祈いします。</p>
	<p>2 議 題</p> <p>(1) 現状分析と課題の整理について [別添資料に基づき，一般財団法人 計量計画研究所から説明]</p> <p>(2) 施策体系及び重点施策の事業概要について [別紙資料 2～5 ページに基づき，事務局から説明]</p> <p>【意見・質疑等】</p>
部会長	<p>それでは，事務局から説明がありました施策の体系と重点施策の事業概要につきまして，ご意見等をいただいてまいりたいと思います。 まず，施策の体系については，事務局から説明がありましたように整理したものととなっております。 次に，重点施策の事業概要について，ご意見等をいただいてまいりたいと思います。 特に，重点施策として挙げられている施策以外で，8年間の計画期間内に実施すべき施策がありましたら，ご提案をいただいてまいりたいと考えておりますので，よろしくお祈いします。</p>

委員	<p>本部会で検討する基本方針としては、資料にもありますように「分かりやすい公共交通」であり、その実現に向け、3つの基本施策、8つの重点施策に整理されております。ご意見等はいかがでしょうか。</p> <p>現況と課題のところ、バス停から徒歩で15分以上かかる地域にお住まいの方は、バスを利用しないというデータが示されており、このようなデータに基づきバス停の見直しを行っていただきたいと思えます。</p> <p>それから、まちなかのことについて、将来的には人口減少が見込まれるから、それを前提とした交通の見直しが必要なのではないかというお話がありましたが、一方で、まちなかを交通面からサポートするというお話もありました。</p> <p>中心市街地の人口減少を前提とするのであれば、水戸市の政策と整合性がとれないのではないのでしょうか。まちなかを衰退させないというのが水戸市の政策であるはずですが。</p> <p>中心市街地の人口減少を前提としながら、まちなかの公共交通の利用促進を図る政策とはどのようなものなのでしょうか。</p>
計量計画研究所	<p>補足の説明をいたします。まず、人口減少につきましては、まちなかにおいて、高齢化が進展していることから、そのような状況になる可能性があるということです。</p> <p>今回の基本計画では、まずは8年間で何を行っていくのかということを検討しながら、将来的には人口減少を迎えるという危険性もあるので、まちづくりとの連携という意味でも中心部に人を集めるようなまちづくりの方針と整合性のある公共交通の政策に取り組んでいくべきであるという問題提起をさせていただいたものです。</p> <p>まちなかの人口が減少するから、バスの本数の見直しが必要であるということではなく、まちをどのようにしていくのかということをも前提として、そのためにバスはどうあるべきかを考えていくということをお示しさせていただいたものです。説明が足らずに申し訳ありません。</p>
委員	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>基本施策の情報提供という視点から、重点施策に運行情報を提供するバスロケーションシステムの導入を位置づけてはいかがでしょうか。</p>
部会長	<p>ただいまのご意見について、事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>資料3ページをご覧ください。ただいまご意見がありました件は、2の「分かりやすい公共交通」の1の「情報提供」の施策の具体例として、「運行情報を提供するシステムの構築」を挙げております。これが一般的にはバスロケーションシステムと呼ばれているものであり、現時点では、重点施策としてピックアップしておりません。</p> <p>利用促進部会でのご提案ということで、これを重点施策に位置づけるということは可能です。</p>
委員	<p>課題の中に、バスがいつ来るのか分かりにくいというものがありましたので、これを受け止めれば、バスロケーションシステムの導入ということになるのではないのでしょうか。</p>
部会長	<p>重点施策にバスロケーションシステムの導入を位置づけていくということについて、何かご意見はありますか。</p>

委員	バスロケーションシステムという用語を使ってしまうと、全国的に取り組んでいる事例が多数あることから、その言葉にとらわれてしまう可能性があります。手法としては、他にもあるわけですから、もう少しゆるやかな言葉を使った方がいいのではないのでしょうか。
部会長	前向きに考えつつ、その言葉ではなくて、表現していくということですね。
委員	はい。
部会長	目指す方向性は同じだと思いますので、事務局にはご検討いただきたいと思います。
事務局	はい。重点施策に位置づけるということで、表現については検討いたします。また、事務局の考え方としましては、現時点での複雑なバス路線網でシステムを構築するとなりますと、難しいということもありますので、3年間は検討期間として、第1次再編後にバス路線網が分かりやすくなった状態で、運行情報を提供するシステムの導入を位置づけてまいりたいと考えております。次回の利用促進部会でお示ししてまいります。
部会長	他にいかがでしょうか。
委員	重点施策に「共通乗車券の導入」とありますが、各バス事業者がそれぞれICカードシステムの導入を進められている中で、どのようなものが想定されるのでしょうか。
部会長	バス事業者さんの方でいかがでしょうか。
委員	私どものICカードは独自のシステムであり、スタート時には、他のシステムとの互換性はないのですが、将来的には、双方向は難しいとしても、片利用ができるようにすることも考えられます。 他にも、具体的にはこの場で申し上げることはできませんが、現在、他の事業者と協議を進めているものもあります。
部会長	「共通乗車券の導入」につきましては、エリアが限定されていますが、先行して取り組んでいくというスケジュールが示されているところでもあります。 他にいかがでしょうか。
委員	「情報提供」のところでは、バスがいつくるのか分からない、行き先が分からないというお客様の声を耳にします。やはり、路線図が頭に浮かんできませんとこの問題の解決にはつながらないと思います。そこで、バスマップを作成して、配布するということが重要だと考えております。 その他にも、情報端末で検索システムを活用することによって、分かりやすい情報提供に努めていくということも大切であると考えております。
部会長	携帯電話等で乗り継ぎや時刻表を検索できるシステムの導入ですね。
委員	はい。
部会長	ただいまのご意見が含まれているところはありますか。
事務局	「路線図・時刻表等の配布」という重点施策に含まれると考えますが、より具

<p>部会長</p>	<p>体的に表現するべきということでしたら、きちんと分けて表現することも可能です。</p> <p>また、バスマップにつきましては、検討期間を3年間として、路線再編後に分かりやすいものを作成することを想定しておりますが、偕楽園などの主な観光スポットを分かりやすくお示しして、観光客に特化したものを作っていくということも考えております。</p> <p>特に観光客は、事前にウェブサイトで乗り継ぎ状況等を調べる方が多いと思いますので、こちらの方もぜひご検討いただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>金沢市には「兼六園シャトル」というバスがあります。行き先を細かく表示するというのではなくて、例えば観光客向けのものであれば、バス自体に偕楽園の名前をつけてしまうという方法もあるかと思いますが、そのような検討はされているのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>弊社では偕楽園にバスを乗り入れておりますが、路線バスですので、他の行き先もあります。確かに観光客にとっては、「偕楽園シャトル」という名前の方が分かりやすいということはあるかもしれませんが。</p> <p>梅まつりの開催期間中に観光協会と連携して、ラッピングバスを走らせてみることも考えられますので、検討してみたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>金沢市の場合には、観光客用のバスルートと生活者用のバスルートが分けられており、ターゲットを絞って分かりやすい情報を伝える工夫をしています。このような考え方は大変重要であり、これはマップを作る際にも参考になると思います。</p> <p>特に最近では、観光客をターゲットにする場合、多言語で表記するということが大切な要素となっておりますので、ターゲットとなるユーザーを明確にして重点施策に取り組んでいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>都内ですと、都営バスを含めたバス路線をグーグルマップで検索することができます。このような対応を可能にするためには、バス事業者からグーグルへどのように情報を提供すればいいのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>弊社のホームページでは、行き先を検索して乗り継ぎ等の情報を提供できるシステムはありますが、グーグルマップ等の地図上から検索できるシステムはないため、どのようにすれば、地図上での検索が可能となるのか、調べてみたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>ただいまのご意見は、路線の再編後でなくとも、既存のシステム等を活用することによって、バスを利用しやすくなる方法があるのではないかというご意見でした。バスのユーザーを増やしていくという意味でも、大切な取組であると思います。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>盛岡市で実施しているまちなかお出かけパスの事業のように、商店街と連携して、バスを利用して中心市街地で買い物をした場合に、割引を受けられるようなサービスがあれば、バスを利用する市民の立場としてはありがたいと思いますし、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>バスのチケットのあり方の一つとして、ご提案をいただきました。</p>

委員	バスの利用促進として、良い取組だと思います。
委員	70才以上の方に限定した理由はお分かりになりますか。
事務局	盛岡市の事例は、事務局でも把握しておりまして、事業の目的は三つございます。一つは中心市街地の活性化で、二つ目は高齢者の外出支援、三つ目が公共交通の利用促進というものでございます。 盛岡市の場合、高齢者の外出支援ということで、70才以上の方を対象とされておりますが、このような制度が水戸市にもあればというご提案だと受け止めておりますので、水戸市にとりましては、どのようなサービスが必要なのかということを考えて、制度をデザインしていけばいいのかなと考えております。
部会長	後ほど事務局から説明がありますが、100円バス事業のように、水戸市にとって必要なサービスを考えていくということが大切だと思います。 他にはいかがでしょうか。
委員	路線図の配布について、再編後の3年後まで待たなければならないというのは、遅い気がします。今、私たちの手に入れられる路線図は2010年のもので、変わっている個所も多いですし、3年間も着手しないというのは理解に苦しみます。同様にインフォメーション施設についても、施設の確保等の課題があることは分かりますが、路線の再編後までやる気がないというのは、少し残念な気がします。 一方で、モビリティマネジメントは平成28年度から取り組んでいくと表記されています。前回の会議では、茨城交通さんから、その具体的な中身が大切であるという発言があったかと思えます。具体的にどのようなところから着手して、来年度から実施していくのかお伺いしたいと思えます。 それから、連節バスの導入については、どのようにお考えなのでしょうか。
部会長	ありがとうございました。いくつかお話をいただきましたが、3年間も待たずに、できることはすぐやりましょうというお話もいただき、これは重要なことだと思います。ですので、これは事務局にも考えていただきたいところです。 まず、路線図につきましては、できるかどうか分かりませんが、グーグル等のウェブを活用して目に見えるようにしていくことは、比較的取り組みやすいのかなと思えます。 実際にマップを作成し、配布することは、路線の再編がありますから、その前に作成することは、混乱を招くことも予想されますので、そのような状態を招かない方法で実施する方がよろしいのではないかと思います。
委員	他の自治体では、市民団体が毎年バスマップを更新している事例もあります。何も最初から完璧なものを作るのではなくて、毎年更新することで、より良いものを作り上げていくという方法もあるのではないかと思います。 それから、やはり紙ベースのものが必要であると思えます。電車の時刻表は新聞折り込みに入っていて、どの家庭でも壁に貼っています。
部会長	このような情報提供は、すぐにできるところは、やった方がいいですね。 それから、二つ目のお話は、モビリティマネジメントのところをもう少し具体的な取組として表現した方がいいのではないかというご意見でした。
委員	現況と課題のところで、バスを利用されている人の方がバスへの不満が大きいというお話がありましたが、バスを利用していない人は無関心な人が多いということですね。

計量計画研究所	そうですね。あまりバスのことをご存知ないということだと思います。
委員	バスの利便性が高くなっても、バスを使わない人には関係ないですね。ですから、バスを使うことが格好いいというようなイメージを作り上げることも大切であると思います。ですから、利便性だけを追いかけるのではなくて、バスを利用することが格好いいとか、バスを待っている人が格好よく見えるような工夫も大切であると思います。
委員	確かに、バスをお待ちいただいているお客様は、道路が渋滞している時などはばつが悪そうにしているのを見かけます。
委員	バスを待っている時は、車からすごく視線を感じます。バス停のハード面に原因があるのかどうか分かりませんが、バスに乗ること自体がスマートに見えるということも大切だと思います。
部会長	重点施策にもありますように、バス停留所の見直しに取り組んでいかなければいけませんよね。 バス停を広告料収入で賄いながらバージョンアップしていくことと同時に、ラッピングバスなどにも積極的に取り組みながら、あのバスに乗ってみたいと思われるようなバスを走らせることも大切だと思います。もちろん、これらは、まちの景観と調和したものでなければいけません。 それから、モビリティマネジメントですが、これは市民に訴えかけるような仕掛けを継続的に取り組んでいかなければなりません。どのような施策に取り組んでいくのか見えにくい表現となっておりますので、もう少し具体的な表現にしていくことを検討していただきたいと思います。
計量計画研究所	モビリティマネジメントは、確かにいろいろなやり方がありますし、対象も誰にするのかといったことによって取組が変わってきます。ですから、計画に書き込む時には、どの時期に何をやるのかということを確認的にするのではなくて、事例として、このような時期に、このような人を対象にして、こういったことに取り組んでいきますというようなことを中心にしていきたいと考えております。 それから、モビリティマネジメントは情報提供と一体なので、例えば路線図の作成をできるところから行って、観光客に配布するというような方法もあると思います。
部会長	では、そのようなことで、ぜひよろしくをお願いします。
事務局	補足となりますが、モビリティマネジメントは平成28年度から継続的に取り組んでいくものとなっております。他の取組に先行して着手していくというように見えるところですが、これは今現在も行っている取組がございまして、計画期間中も継続して取り組んで行くという意味合いで表示しているところです。 具体的には、国田地区で、バス路線の維持確保のために、路線図と時刻表を全戸に配布してPRしておりますし、同地区の小・中学校で授業を行ったり、バスの乗り方教室を実施しています。既に行っている施策について、継続して取り組んでいくということで、このような表記をしているところです。 ただ、現在の表現ですと、具体性に欠けるということですので、計画策定の段階で、充実させてまいりたいと考えております。
部会長	はい。よろしくをお願いします。 連節バスにつきましては、「車両の高度化」ということで、どのような方法が

	<p>いいのかということとあわせて考えていくべきものだと思います。</p>
事務局	<p>「車両の高度化」についてですが、3年間検討して、路線の再編後に導入していくということになっております。現段階では、費用負担の方法等について明らかにしてはおりませんが、様々な手法を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>また、連節バスのように車両を大型化するばかりでなく、路線に合わせて、小型のバスなどを導入するという考え方もあろうかと思っております。小回りのきく車両を導入して、運行していくということも今後検討してまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>「情報提供の施策」として、「共通サインシステムの導入」とありますが、これは水戸市内に限ったものなのでしょうか、それともある程度周辺市町村までを対象としたものなのかお伺いします。</p>
事務局	<p>資料5ページの「共通サインシステムの導入」の事業内容に記載しております「公共交通サインマニュアル」は、水戸市独自のものをイメージしております。ただ、バス事業者さんの運行エリアは水戸市内に限ったものではございませんし、水戸市がそのような表示をすることによって、水戸市以外の地域が混乱するようなことはあってはいけませんので、まずは考え方を整理した上で実施してまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>資料3ページの「基本施策に基づく施策の具体例」に「駐車場環境の見直し」という表現がありますが、これは車を利用する方の駐車場をどのように見直していくということなのでしょうか。</p>
事務局	<p>3ページに記載しております施策の具体例は、今後、水戸市が取り組んで行く重点施策を抽出するに当たりまして、リストアップした施策の例となっております。</p> <p>当初、駐車場環境の見直しを記載した背景には、中心市街地において、車がかなり格安で駐車できてしまうという実態がある中で、公共交通が苦戦を強いられているという考え方がありました。</p> <p>この施策につきましては、現段階におきまして重点施策としてピックアップしてはおりませんので、具体的にどのようなことに取り組んでいくのかということについて明らかにしてはおりません。</p>
部会長	<p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私は先日、静岡駅で路線バスに乗る機会があったのですが、非常に分かりやすかった。水戸駅は行き先ごとにバスロータリー内に乗車場所がいくつもあって、特に観光客には分かりにくいと思います。事務局では、このような事例も調査していただきたいと思います。</p> <p>それから、モビリティマネジメントの取組の一つとして、例えば、高校3年間をバスで通学した生徒には、CO₂削減賞を授与するなどの取組を実施することも効果的であると思っております。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。モビリティマネジメントの取組の一つとして、利用促進を促すための教育的普及を図ってはいかがでしょうかというご提案でした。今後、モビリティマネジメントの具体的な施策を検討していく際に、参考にさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、茨城県タクシー・ハイヤー協会からご提案をいただけるということですので、鬼沢委員よろしくお願ひします。</p>

委員	<p>お配りした資料にありますように、当協会からは閑散時間帯におけるタクシー運賃の割引の提案をいたします。これは、朝晩の通勤時間帯等はサラリーマンの利用がありますが、お昼の閑散としている時間帯に、時間ごと、距離ごとの割引を実施し、行政と協力することで、高齢者等の外出支援策につながる取組ができるのではないかとということで、今回提案させていただきました。</p>
委員	<p>補足で説明させていただきます。まず、タクシーなのですが、公共交通という認識があまり持たれておりません。では、なぜ公共交通なのかということですが、このような会議の場におきまして、運賃が自由に決められないということがあります。また、バスの運賃に比べて高いということもありまして、公共交通の会議の話題にも上らないということがあります。</p> <p>一方で、他の市町村では、高齢者等の外出支援策として、タクシー券の補助を行っているところもあります。路線バスはバス停までしか来てくれませんが、タクシーは目的地まで、ドア・ツー・ドアですから、非常に好評です。ところが、運賃の割引が容易にできないものですから、協会の要望を受けまして、新しいタクシーのあり方検討会の中間とりまとめが8月の末に出たのですけれども、その中に、タクシーの需要の創出・拡大という項目が挙げられました。そして、基本的な考え方として、需要に応じた柔軟な運賃設定を検討すべきであるということで、自治体と連携を図って、期間や地域を限定した実証実験を実施して、その後、導入に向けて検討していくとなっております。</p> <p>水戸市の基本計画におきましても、「新たな移動手段の導入」を重点施策として位置づけていくということですので、公共交通の空白地帯では、非常に有効な取組になると思われまます。</p> <p>このシステムは、自治体と事業者と利用者の三者が、それぞれ負担することにより成立するものですから、できれば水戸市においても新しい交通手段の一つとして検討していただきたいと思い、ご提案させていただきました。</p>
部会長	<p>タクシーの割引運賃を活用した実証実験について、どう考えるかということでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。ただ、この場で具体的な取組を決めましょうということではなく、国ではこのような流れになっているので、水戸市でもその気があるのであれば、我々も協力いたしますというお話です。</p>
事務局	<p>資料の4ページをご覧ください。具体的には、交通体系部会に所属する案件がありますが、ただいまのご提案について位置づけが可能と思われまますのが、1の3の「移動手段の確保」というところで、「新たな移動手段の導入」という重点施策がございます。</p> <p>ここで意図しておりますのが、公共交通の空白地域や不便な地域の中から、モデル地区を選定して、鉄道や路線バスといった公共交通との連携を基本とした外出支援策を実証実験として実施するというのを考えております。その中の具体的な手法として、タクシーを活用するというのが考えられると思ひます。</p> <p>基本計画をとりまとめていくに当たりましては、既存の交通資源を活用するということが基本的な考え方になっておりまして、水戸にとっての交通資源として、鉄道であったり、路線バスであったり、当然、タクシーも入ります。ですから、この内容につきましては、事務局でも勉強させていただきまして、具体的にどのような対応をすることができるかということ協議してまいりたいと考えております。</p>
部会長	<p>それではよろしくお願ひいたします。</p>

事務局	<p>続きまして、「水戸駅～大工町」共通回数券活用100円バス事業につきまして、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>「水戸駅～大工町」共通回数券活用100円バス事業について [別紙資料6ページに基づき、事務局から説明]</p>
部会長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見やご感想はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>水戸まちなかフェスティバルの開催時に100円バス事業を実施して、どのような意味があるのでしょうか。それから、8月に事業を実施したときには、循環線には使用することができませんでしたが、今回はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>まちなかフェスティバスの際には、路線バスは迂回路を通りますので、迂回する区間で使用できるようにいたします。細長い1.5kmの区間で端から端まで移動したいというニーズもあろうかと思ひまして、通常のバス停の代替として、使用できるようにいたしました。</p> <p>また、使用区間につきましては、前回8月と同様でございます。</p>
部会長	<p>100円バス事業について、バス事業者から事業の評価や利用者の評判をお聞かせいただければと思うのですが。</p>
委員	<p>前年度の8月との単月比較では、全体の利用者は伸びました。利用者の評判としては、1人2セットまでしか購入できないのかという声はあったようです。</p>
部会長	<p>定期券購入への影響については、いかがでしたでしょうか。</p>
委員	<p>年度単位で見なければ比較できないため、現段階では何とも言えない状況です。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。その他ありますでしょうか。</p>
委員	<p>情報発信の部分で、やはり自分の身近な問題として情報を落とし込んでいかなければならないと思います。手段としては、現在でも紙媒体は重要であり、インターネットによる発信と同様に力を入れて取り組んで行かなければいけません。</p> <p>また、情報量が多い中で、身近な人が発した情報は効果が大きいので、公共交通であれば、公共交通を利用している方の情報を活用することが利用促進に繋がっていくので、魅力発信課としても協力していきたいと考えております。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。他にありますか。</p> <p>ないようですので、以上をもちまして、本日の利用促進部会を閉会します。次回の開催は、10月下旬を予定しておりますので、よろしく申し上げます。皆様お疲れさまでした。</p>